

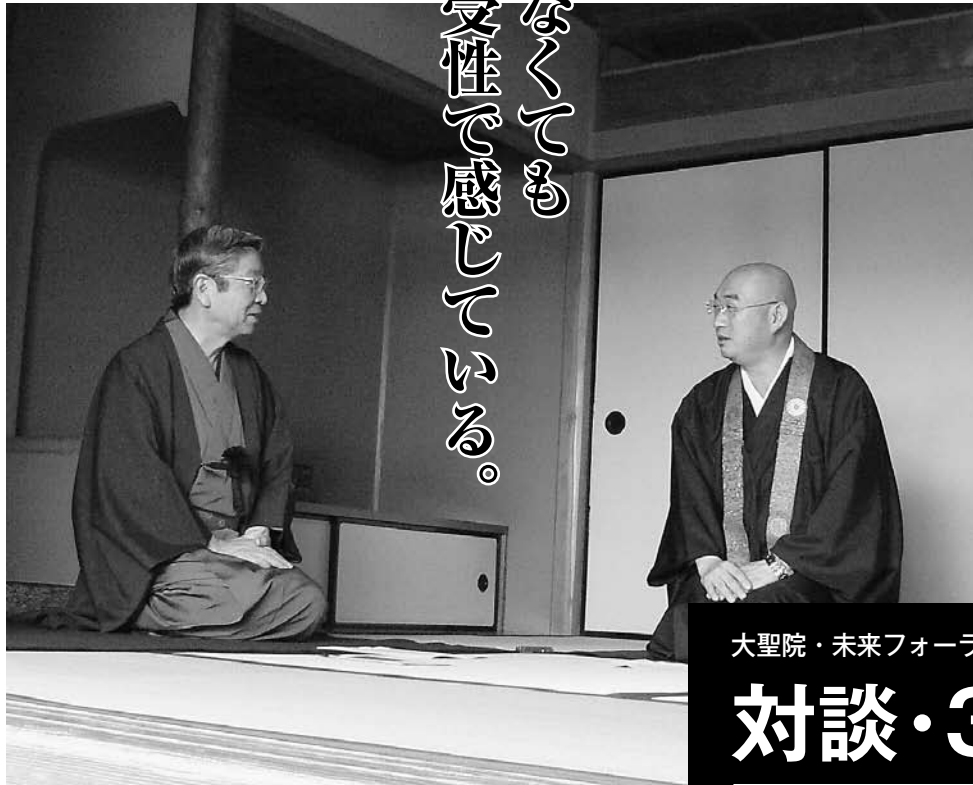
こころみち

cocoromichi

衰退は終わりを意味する経済と違つて何百年、何千年でも続くのが文化。そこが文化や宗教の強いところだと上田宗箇流十六代家元、上田宗岡氏。「宮島てらこや」の取り組みにも深い理解を頂き、会長にも就任していただいた氏に日常の中の文化や心のありようをお聞きしました。

大人が説明しなくても
子供は鋭い感受性で感じている。

千利休 古田織部 上田宗箇と四百年以上にわたつてつづく茶の世界。時代に合わなければ静かにしていれば良い。呼吸と同じように時代に合わせて外に出す。内にためる。それが継続する力だと思う。



大聖院・未来フォーラム

対談・3

ゲスト 上田 宗岡 氏

こころみち



宮島の体験。自分でつくるもみじ饅頭焼きの味。
宮島のもみじ饅頭に懐かしい味が帰って来ました。藤井屋に続きもみじ饅頭の老舗の一つ、やまだ屋に手焼きもみじ饅頭が登場です。どこでも売っているもみじ饅頭から宮島だけの「もみじ饅頭」に。「同じ生地、同じ餡とは信じられ

子どもと学生と大人が学ぶつ「宮島てらこや」。
「子どもが育つ、大人が育つ、地域づくり」をコンセプトに、昨年宮島を中心に活動を続けてきた「未来づくりフォーラム」か

ない」とお客様。「宮島だけでしか味わえないものをお客様に提供しなかったのです」と中村社長。同時に、本店二階にはもみじ饅頭作りが体験できる「体験スペース」も設置。修学旅行生や団体の方に宮島の体験、文化・歴史を伝える貴重な試みを行なっておられます。電話：0829-44-0511



ら広島の大學生たちと子どもと大人が一緒に遊び育つための場「宮島てらこや」が設立されました。不登校の子どものための学校、生野学園創設者・森下一氏が名誉会長。上田宗箇流家元・上田宗岡氏を会長に、これから多くの仲間たちが活動を始めます。

宮島ルネッサンス 蘇る宮島文化と 新しき担い手の台頭。

宮島スポット



山辺の古径

江戸時代以前の厳島参拝の道と言われている「山辺の古径（こみち）」。
棧橋から山手に入った不動堂から始まり、幅1メートル程度の細い道が山裾を宮島支所裏手の光明院まで続く。町家の蔓や五重の塔の眺めは、気取らないもう一つの宮島の顔を見せてくれる。

対談・3

ゲスト 上田 宗岡 氏



吉田 正裕

1960年生まれ。広島県出身。種智院大学仏教学部及び仁和密教学院卒業後、真言宗御室派大本山大聖院勤務。1990年高野山真言宗真光院住職（現在も兼務）。1998年真言宗御室派大本山大聖院座主に着任。現在に至る。仏教のみならず、スポーツ、教育、町づくりなど幅広く活動。

上田 宗岡

1945年生まれ。広島市出身。慶応義塾大学経済学部卒業。1972年上田宗箇流家元若宗匠継承。1995年第16代上田宗箇流家元継承。(社)青少年育成県民会議会長、広島県私立中学・高等学校教育後援会会長、(財)広島市文科財団理事。著書に「上田宗箇流 茶の湯」(共著・第一学習社)「上田宗箇の茶」(講談社)等がある。

はじめがないから我慢できない。訓練しないから感情もコントロールできない。

吉田 今年やっと「宮島てらこや」を立ち上げることができました。お家元には会長を引き受けていただきありがとうございます。

上田 気軽に引き受けてしまったのですが、良かったのでしょうか。

吉田 みんな喜んでおります。ところで、お家元は教育に関わるいろいろな活動をなさっておられますが、いまの教育をどのように感じておられますか。

上田 教育そのものより、その前が問題だとおもいます。子どもに限らず、公私のけじめが無くなり過ぎている。けじめがないから我慢できない。訓練していないから感情もコントロールできない。その繰り返しのような気がしますね。

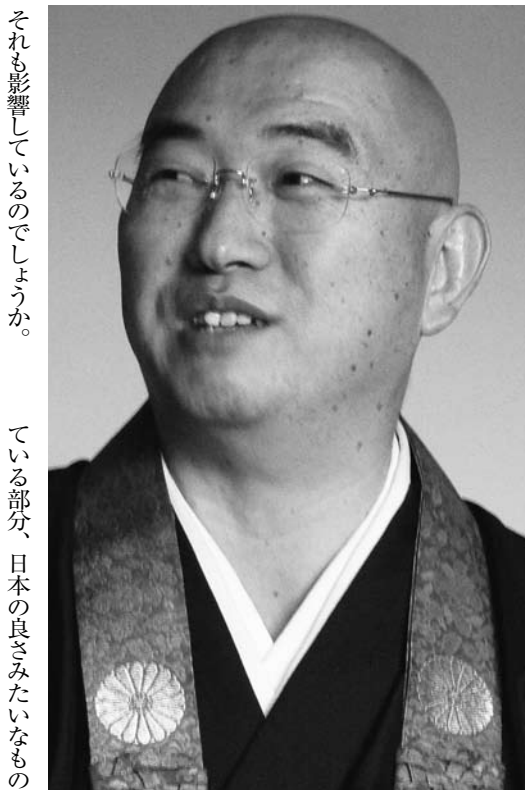
吉田 共働きが増え、子どもと接する機会も少なくなっています。

日常の中で五感を刺激する。それを自分で意識する。それが文化でもあると思います。

されるとおっしゃっています。良い環境では、自然と良いスイッチが入るのでしょうか。

上田 そういう機会を増やしていくところこそが大事だと思います。

吉田 子供たちだけでなく、最近武家茶道への女性の関心も高まっていると



それも影響しているのでしょうか。

上田 ご両親の目が家庭の外に向くことが多いと、子どもが置き去りになりますよね。特に、小中学生くらいまでは母親の存在がとても大きいと思いますよ。

吉田 母親と父親の役割分担が必要とゆう事ですね。

上田 そう。今の生き方は、日本人が本来持っているものと合わないのかもしれないですね。

吉田 「宮島てらこや」は、その欠け

お聞きしています。

上田 上田宗箇流は、直線的な流れが多くキリッとした緊張感があります。時代の空気と合っていると申しましようか、そういうものを求める方が増えている事は、日本の良さが薄れてきている事の裏返しかもしれません。

吉田 日々の生活のなかに、日本の良い文化を活かすにはどのようにすれば良いでしょうか。

上田 私は毎朝、庭に出て花を摘んで、掃除をして、花の前でお経を唱えた後

ている部分、日本の良さみたいなものを、子どもたちと一緒に体験したいと思っているのですが。

上田 私どものところへ、小学生がお茶の体験に来られるのですが、先生たちがびっくりするくらい子どもたちは静かにしている。大人が説明しなくても「ここはそういう場だ」と子どもは鋭い感受性で感じているでしょう。

吉田 DNA解析の世界的権威でいらっしゃる村上和雄先生は、環境によつて遺伝子のスイッチがオン、オフ

にお手前の稽古をするのですが、「生きていく」という実感が毎日あります。朝、ちよつと花を生けてみる。寝る前に香を焚いてみる。電気をつけず自然の光を感じる。など、いかに日常の中で五感を刺激することができるか、それを自分で意識する。それが文化でもあると思いますよ。